

桜台タイムズ



2000年（平成12年）11月

発行：桜台自治会

市原市桜台1丁目5-1

発行責任者 広報部長：土屋 清孝

【桜台自治会創立20周年記念特集号】

創立20周年を祝して

市原市長 小出善三郎

桜台自治会が、記念すべき創立20周年を迎えられますことは誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。貴自治会は、昭和56年に創立されて以来、歴代役員をはじめ、会員の皆様の御熱意と御努力により、周辺地域に誇る素晴らしいまちを創りあげてこられました。まちづくりは、先人が培った地域の貴重な歴史や文化、自然等を生かし、住民自らが、ふるさとに対する誇りと愛着を深め、築き上げていくものであります。魅力的なまちに住みたいという思いは、全ての人々の共通の願いですが、精神的なゆとりと豊かさを実感できるまちこそが、真の故郷であると存じます。



桜台周辺には、江戸時代からの道、久留里西往還があります。当時は、姉崎から久留里に通じる道として、大名が参勤交代のときに通った殿様道でありました。この地に20年前、大規模開発により誕生した貴自治会は、全町一体の自治会を組織し、新たな故郷づくりを推進されてこられました。平成9年には、市が地元の意向を受け、桜台雨水調整池に八橋や遊歩道をつくり、水緑景観を整備いたしました。春には、周囲を満開の桜が彩り、まさに桜台の町名の如く美しい景観を醸し出しております。

現在、本市では、2001年（平成13年）～2005年（平成17年）までを計画期間とする『新5か年計画』の策定作業に入っております。

この実施計画は、いわば21世紀の市原市を総括することにより、市民生活に即した施策展開を図る

ものであります。

変動する社会情勢を受けて、行政課題は複雑多岐となっておりますが、新しい時代の息吹をとらえ、21世紀のふるさと市原の礎を築くため、対話と協働による市民本位の市政運営に全力で取り組んでまいりたいと存じます。

結びに、桜台自治会のますますの御発展と会員各位の御健勝と御多幸を祈念し、お祝いのごことばといたします。

創立20周年を祝して

椎の木台自治会

会長 須藤 明

桜台自治会の創立20周年をお祝い申し上げます。貴自治会は、近隣自治会の中において大自治会組織であり、常に地域社会の発展と活性化にあたって他自治会をリードしてこられました。特に大団地の抱える様



々な問題についての取り組みについて、和田会長さんをはじめ自治会役員の方々の熱意とご尽力に深く敬意を表します。今後、少子高齢化時代を迎え、社会環境も大きく変化すると思われる中において、地域コミュニティ作りが大切で有り、当自治会としても貴自治会との役員交流会を更に充実し地域の活性化に寄与して行きたいと思っております。幸い貴自治会々員によるとボランティア組織と当自治会のボランティア組織との交流も行われており、共に地域社会の福祉ボランティア活動が諸団体より高く評価されています。

今後これから組織をもふくめての交流も大切であると思っておりますので貴自治会のご協力と

ご指導を賜りたいと存じます。

結びに貴自治会の業績の更なるご発展と会員各位のご多幸を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

記念号発行にあたって

桜台自治会
会長 和田 幸三郎

桜台自治会は、創立20周年を迎えました。創立時510名余で発足しましたが現在は1245世帯（4200名余）の会員を擁し、市原市で五指に入る大団地自治会としてその運営の積極的パワーを保持して居ります。ここ迄こられたのも、会員および



歴代役員の方のご協力とご努力の賜物で深く感謝申し上げます。本記念号で取り上げました、団地内統計資料が示す通り、高齢化・少子化問題や福祉、介護問題、生活環境の悪化等直面する課題が山積して居ります。20周年を1つの節目として、今迄よりもっと広く人材を求め、その知的能力を結集し、自治会の対処能力の専門化、高度化をはかりたいと考えています。

理念を高く掲げ、目標に向かって日々努力する事が自治会としての努めと信じます。終わりになりましたが本誌巻頭に小出市長の御祝いの言葉を飾らせて頂きました。誠に光栄に存じ御礼申し上げます。

今後の自治会活動を考える

桜台自治会
副会長 浅野 進

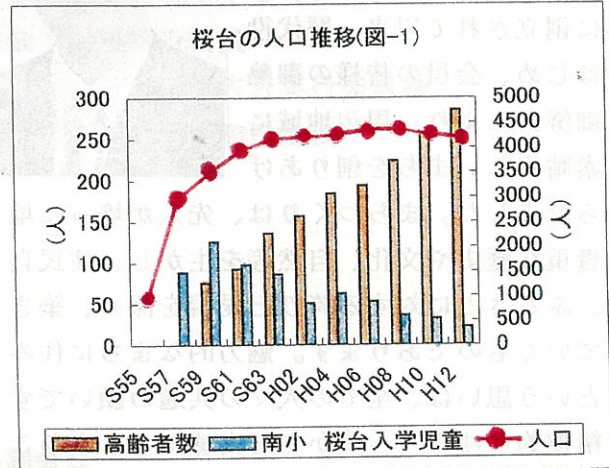
20年前、桜台の我々の諸先輩は、熱きボランティア精神と強い使命感を帯びて、桜台自治会を創設して大自治会組織の礎を築きあげた。そして今では、周囲の町会に誇れるまでに成長した。今日に至るまでには諸先輩におかれては筆舌しがたい苦労は山ほどあるだろうが、会員サービスの向上に務め、色々な問題の処理に汗してこられたことに大いに感謝し、且つ賞賛をする。近年の社会環境の激変は当自治会へも影響を与えている。高齢化社会への対応や地域社会

との連携が重要になってきている。地域問題は自治会運営へ波及し自治会の問題は地域社会の問題であるといいきれるまでになってきた。これからの自治会活動を考える上で、重要な基礎データとなる『桜台の人口動態』をみて、今後の活動の根幹を為すであろう福祉活動と地域社会との連帯及び情報公開についてクローズアップした。

1. 桜台の人口動態

どんどん進む少子化、高齢化社会は大きな社会問題である。桜台住民にとっても深刻である『図-1』は桜台の人口推移を表したもの。

(平成12年4月現在、市・南小のデータによる)



昭和63年と平成12年を比較すると人口は4200人前後ではほぼ変わらないが、有秋南小の桜台地区の入学児童は86名から22名と1/4へ減少している。反対に70歳以上の高齢者は136名から285名と倍増している。『図-2』は、年代別人口分布を表したもの。30歳代以下と40歳代以

